



APAY eNews

翻訳: 永岡美咲 (日本YMCA同盟)

第30回 アドバンス・スタディー・プログラム

Duncan Chowdhury



アジア・太平洋YMCA同盟(APAY)主催 第30回アドバンス・スタディー・プログラムは、2012年11月30日に香港中華YMCAIによる修了式をもって閉講しました。このプログラムは、11月5日、香港YMCAIによるウェルカム・ディナーから始まりました。研修の開催地は、香港・新界にあるウーカイシャYMCAユース・ビレッジでした。バングラデシュ、中国、香港、インド、日本、韓国、マレーシア、ミャンマー、フィリピンとスリランカから全11人のYMCA主事が参加しました。

1か月に及ぶアドバンス・スタディー・プログラムのカリキュラムは以下の通りです。(1)現在のYMCAミッション、(2)現代の神学やクリエイティブな礼拝に関する理解、(3)グローバリゼーションの社会における現実や影響、(4)地球市民育成、(5)ジェンダーに配慮した教育、(6)文脈上の反応—オルタナティブな反応のあり方、(7)気候変動への理解、(8)文脈上の事実、影響と反応(エクスポージャーと他団体訪問)、(9)YMCA運動—新しいトレンド、主眼点、よりよい組織運営、制度の見直し、(10)文脈上のプログラム反応・プレゼンテーション。

参加者たちはプログラム中、160時間を難しい勉学に費やしました。プログラムは、講義、ディスカッション、グループワーク、討議などの形式で行われました。エクスポージャーでは、ケージ・ホーム(caged homes。訳注:網によって小さく仕切られた低所得者の部屋)、移住労働者、有機農業、ユース対象の活動を行う香港のYMCAを視察・見学しました。

30th Advanced Studies Program Participants



Mr. Nipun Sangma
National YMCA
Bangladesh



Mr. Lin Chi Keung
Chinese YMCA
Hong Kong



Mr. Chung Dong Keun
Suwon YMCA
South Korea



Ms. Sheena Awatin
Manila YMCA
Philippines



Ms. Tian Tian
Guangzhou
YMCA
China



Mr. David Samuel
National YMCA
Central India



Mr. Ho Kak Jin
Kuala Lumpur
YMCA
Malaysia



Mr. Hettiyadurage Prasanna
Sanjeewa Peiris
National YMCA
Sri Lanka



Ms. Xu Shan
Xiamen
YMCA
China



Mr. Kenji Akiyama
Osaka YMCA
Japan



Ms. Khan Mai
Miyitkyina YMCA
Myanmar



講師陣は、David Suh 博士、Lo Lung Kwong 博士、Lawrence Yick 博士、Ron Coulombe 氏、Maggie Matheison 氏、Sunita Suna 氏、Anthony Chiu 氏、Doris Lee 氏、山田公平氏、Bruce Van Voorhis 氏、Lee Man Key 氏と Duncan Chowdhury 氏でした。

カリキュラムでは、この研修後に参加者たちがそれぞれの職場に復帰した際、それぞれのYMCAにて社会に必要なとされる分野への働きを結集し、かつ貢献できるよう、新たなプランを作成し、報告する必要がありました。

香港中華YMCAと香港YMCA、ワイズメンズクラブ国際協会、すべてのリソース・パーソン、APAY スタッフから献身的な協力をいただき、この研修を成功に導いてくださったことに感謝申し上げます。

日本からは秋山健二氏(大阪YMCA)が参加しました。

総主事デスクより・・・
第 30 回アドバンス・スタディー・プログラム
アジア・太平洋YMCA同盟総主事 山田公平



ちょうど第 30 回アドバンス・スタディーが修了したところです。今年は 10 カ国から 11 人が参加、日本からは大阪YMCAの秋山健二さんが参加しました。このアドバンス・スタディーでは、参加者をとおして、それぞれのYMCAの特徴を見ることができます。それぞれの国の状況により、あるいはYMCAができた背景により、みんな違いますが、それぞれの環境の中でYMCAが考えている使命を感じ取ることができます。それらをここでちょっと紹介します。

中国からは 2 人の女性主事が参加しました。広州とアモイです。二人とも若く、入職して 5~6 年のスタッフです。中国のYMCAの特徴は、ボランティア活動の推進にあります。たとえば広州YMCAには 8,000 人を超えるボランティアが登録されています。したがってこの二人のスタッフの役割は、いかにこれらのボランティアをトレーニングして、地域活動、たとえば障がい者、高齢者、子ども達への活動を生み出し、ボランティアと共に取り組んでいくかが大

きな課題だということです。

スリランカからのスタッフは、環境問題や数多くある災害への対応を主な課題としていました。聞くところによると、すでに多くのローカルYMCAには災害対応チームが存在し、いざというときに対応できるような仕組みを作り上げていると言うことでした。

フィリピンのマニラYMCAには、多くの学校単位のグループが存在します。いくつもの小学校、中学校、高校、そして大学にYMCAグループを組織し、YMCAがプログラムを提供し、学校とYMCAが共に地域にでて活動をするというような、かつての日本のハイ Y(高校にあった学生YMCA)のような活動が、小学校レベルから大学まで、浸透していると言うことです。APAY で紹介した地球市民教育をこれらの学校で実施していきたいということでした。

ミャンマーのミチナYMCA(国の北側の町で少数民族が多く、紛争も絶えないところで多くの難民が存在している)からきたスタッフは、IDP(訳注: Internal Displaced People. 国内避難民)と呼ばれる少数民族の難民たちの居住地にいる子どもたちの教育が全く整っていないという現実を指摘。このスタッフの夢は、YMCAでそれらの難民への教育をボランティア中心に行えないかを検討していました。

バングラデシュからは、新しく就任した同盟総主事が参加しました。同盟総主事としてこれからのYMCA作りをどうしていくか、真剣に考えていました。特に、若者が多い国で、若者をYMCA運動の中心に据えていくためにどうしたら良いかを考えていました。若者へのトレーニング、委員会の組織、ボランティア活動の推進など、やることは沢山あります。

香港からは 1 名、YMCAが運営する 1000 人規模の高校の校長先生が参加。ずっと学校教育の専門家としてYMCAにかかわり、頭の中は、いかにモチベーションの低い学生にやる気を起こさせるか、「夢を抱けば空だって飛べるようになる」という確信をもって教育現場を作ろうとしている意欲が感じられました。この先生のもとに学校が任されているなら、YMCAならではの教育がなされるだろうと感じました。

インドからの参加者は、牧師のような、言葉の端々にキリスト教のにおいがするような人物でした。YMCAの中でもっとキリスト教を強調すべきという持論をすべての授業のなかで主張していました。かれはインド同盟の地域スタッフであり、このような中堅スタッフの教育をインドでも実施していきたいという思いを、熱を持って語っていました。

韓国からは、水原(スウォン)YMCAの主事が参加しました。韓国のYMCAは他の国々とは全くと言ってよいほど違います。たとえば、環境のために自転車で通勤通学することを真剣に考え、それをYMCA運動の中心にしているということ。最初は、冗談でしようと思っていたのですが、真剣そのもの。いまでは10キロ以内の通勤圏のスタッフはほぼ全員自転車で通っているようで、YMCAのスタッフの約半分が自転車通勤だそうです。これを学校や、教会やNGOに働きかけてどんどん勧めていっているようです。自転車を改造して、4輪にして通う人もいます。この運動を通して、彼はこう言っています。YMCA is challenging for "Recreating Heaven of God"「神の国を再構築するための挑戦です」と。

マレーシアのクアラルンプールからのスタッフは、自分が若い人たちをよりよい方向に導くために自分がYMCAに職場を与えられていると感じていると言っています。したがって、どう若者たちに近づくかを考え、若者たちにマレーシアの素晴らしい自然に気づいてもらうようなプログラムを作りたい。そんなこともあって、今回オルタナティブ・ツーリズムに強く関心を持ったということです。

大阪からのスタッフは、これまでずっと高齢者福祉に携わってきた秋山さんです。2011年、日本の人口の23%が高齢者、それが10年後には30%を超える見込み。2050年には40%に届くと言う現実を重く見ていました。これは、すべての世代の課題であり、生涯教育の必要性が、福祉サービスの充実と同様に大切なYMCAの役割として感じています。まさに、全世代にとり、新しい生き方を創造する必要があるのではないだろうか。

以上のように、同じことを学んでも、みなそれぞれ自分なりのYMCA使命を感じ取ったようです。それぞれがまさにユニークな発想で独自の活動を生み出し、YMCAがそ

の置かれた地域にどう貢献できるかを考えていました。創造性、イノベーション、そして強い使命感がこれからのYMCA運動に必要です。お互いにそれぞれのすばらしい活動から学びあえることが大切です。メリークリスマス。そしてよい新年をお迎えください。



リソース・モビリゼーション・ワークショップ

Eloisa Borreo



アジア・太平洋地域の錚々たる各国YMCAにてリソース・モビリゼーションと財政的発展プログラムのチャレンジをすることは、簡単なことではありません。しかしながら、今回、リソース・モビリゼーションのコンセプトや原則についてボランティア・コンサルタントやリソース・パーソンたちの資源/リソースや経験から学び、また世界YMCA同盟からの支援を要請し、世界都市YMCAネットワーク(World Urban Network = WUN)と北アメリカYMCA開発機構(NAYDO)とアジア・太平洋地域のボランティアをつなげる目的で、初年度で最初のワークショップが実施されました。各YMCAでワークショップ運営を行う際には、コーディネーターは、インドの Jose Varghese 氏、スリランカの Charith de Silva 氏、フィリピンの Pablito Tabucol 氏を支援しました。また、コーディネーターは、それぞれのYMCAでの進展やフィードバックを追跡、フォローアップする役割を持ち、コンサルタントや APAY の山田公平総主事、

Eloisa Borreo 主任主事など APAY をサポートするキーパーソンでもあります。

各国会長・総主事等、役員の方々やそれぞれのYMC Aがコンセプトや考え方を紹介し、フィランソロピー(慈善、人類愛)の精神を育むため、APAY ボランティア・コンサルタントの Ron Coulombe 氏(カナダ・エドモントン出身)と Manuel Camarena 氏(メキシコYMC A)によるオリエンテーションおよび事例研究のセッションが、役員ビジネス・ミーティングの直後に行われました。そのオリエンテーション・セッションでは、ボランティア・コンサルタントが提供した経験に基づくコンセプト、原則やアプローチから、各国YMC Aからの代表が、リソース・モビリゼーションの枠組みやアプローチを考え、それぞれのYMC Aの文脈に基づいて適応し、開発することが可能であると学びました。私たちは、このイベントの後、このワークショップについてさらに知りたい、運営したいと考え、興味を示されたと聞きました。



アジア・太平洋地域で行われた一連のワークショップには、延べ 165 人が参加しました。そのワークショップとは、3 月の APAY 常務委員会、10 月のプネでの北インドのYMC Aのグループ、トリバンドラムでの南インドのYMC Aのグループ、ニゴンボでのスリランカYMC Aのためのワークショップ、11 月フィリピン・バギオでフィリピンのYMC Aのためのもの、アドバンス・スタディー・プログラム参加者対象のものでした。ワークショップの合計目標額は総額 238,800 USドルですが、そのうち約 25%にあたる 58,800 USドルの寄付の申し出がキャンペーン中にありました。

APAY は、カナダ・エドモントンの Ron Coulombe 氏、アメリカ・ケンタッキー州の Brenda Blakovich 氏、アメリカ・グ

リーンビルの Jami Inman 氏、カナダの Jessica Rawn 氏、アメリカ・アナハイムの Paul Andersen 氏という 5 名をボランティア・コンサルタントとして採用し、任命しました。各地のYMC Aから 16 人のリーダーシップと、3 人の各国コーディネーターが任命・招待されました。彼らは、キャンペーンの制度を構築していくための研修を受けます。重要なことは、より多くの寄付が集められるか、YMC Aから寄付者への感謝を伝えられているか、ボランティアによる奉仕やサポートは的確に評価されているか、寄付・貢献はしっかりと管理され、目的にそって投資されているか、そして最も重要なのは、各YMC AやYMC Aのグループごとに行われる 2 年目のワークショップ、年次の募金キャンペーンに向けて準備が整い、プレゼンターとして貢献することができるか、3 年目の資本金キャンペーンなどの後続キャンペーンに、新しい参加者やより多くの参加者を募ることができるかです。YMC Aのトップリーダーシップの皆さんはまた、ボランティア・コンサルタントたちとともに、このような運動を下支えし、今後、適切なフィードバックが与えられるよう確認していく役割を担っています。今後、常務委員会やミーティングなど、アジア・太平洋地域のプログラムにおいて、それぞれのサクセス・ストーリーを紹介し、シェアするよう要請されることもあるでしょう。

ジェンダー・メインストリーミング トレーナーズ・トレーニング

Eloisa Borreo

4 年間で初めてとなるジェンダー・メインストリーミング(主流化)に関するトレーナーズ・トレーニングが、APAY ジェンダー委員会により開催されました。この研修会は、各YMC A・各国YMC Aの会員やリーダーシップにある人たちが、ジェンダー問題やジェンダーに関する課題への関心を高め、敏感に反応し、それぞれのYMC Aにおいてトレーナー(指導者)を養成するという APAY の期待や戦略上の目標に合わせて開催されたものです。このワークショップの目的は、参加者たちが心のうちに持つジェンダーの

ステレオタイプを知り、それに挑戦すること、ジェンダーや関連するコンセプトを明確にすること、参加者の課題に合わせてジェンダー問題を理解し、それぞれのYMCAでのジェンダー公正をメインストリーム化するための手段やスキルを身に着けること、そしてそれらの課題を改善させるためにファシリテートするスキルを身に着けることでした。



インドネシアYMCA同盟が受け入れを行ったこのプログラムには、2人のリソース・パーソン／ファシリテーターのLiza Lamis博士(フィリピン)およびMercy Kappen氏(インド・バンガロール・ビスタル)とAPAYスタッフ1人を含む、14人の女性と6人の男性の計20人が6か国のYMCAから参加しました。

メイン・リソース・パーソン／ファシリテーターの Mercy Kappen氏が「問題提起によるアプローチ(problem posing approach)」について紹介しました。パウロ・フレイレ(Paulo Freire)によって提唱されたこのアプローチは、①ファシリテーターが考え方の枠組みを示したうえで、まず参加者が創造的かつ活動的に共通の問題を見つけ、その解決方法を探る。②次にファシリテーターがなぜ、どのように、誰がそのように解決するのか尋ねると、参加者が分析したことを積極的に説明し、提言、決定、計画したりする。③最終的に能動的に知識の社会的構造に取り込まれていくというアプローチです。このアプローチは、役に立ち、変革を起こせるものであると思います。なぜなら、先見的で、期待が持て、現代社会に即しており、人々を肯定し、彼らが何であり、何者であるかを理解する手段となり、また、未来を創造することを可能にするからです。

毎日行われた礼拝と聖書からのお話から、聖書に書いてある内容について学ぶことや、エステル記のワシテ妃の物語や旧約聖書のディナと名もなき妾の物語、サラとハガルの物語からその価値観や教訓に基づいた新たな視座を得ることができました。

この研修では、参加者たちはそれぞれのYMCAで行われる研修でも取り入れられるようなクリエイティブな学びの経験、手段、資料が提供されました。また、参加者たちはそれぞれの国のYMCAに自身のYMCAで実行される研修計画／モジュール(カリキュラム)を準備し、シェアするよう期待されています。

さらにリーダーやスタッフをエンパワーし、計画を実行していくために、ジェンダー委員会は経験者向けのフォローアップ・トレーニングを行うことを考えています。フォローアップ・トレーニングは各国YMCAにて開催される予定で、アジア・太平洋地域全体での経験者向けトレーニングは来年開催される予定です。



YMCAスタッフ研修参加者募集 インド・バンガロール

インドYMCA同盟は伝統的に、100年以上、インドのYMCAスタッフ対象の研修を行ってきました。会場は、南インド・バンガロールのユナイテッド・セオロジカル・カレッジです。基本的にインドのYMCAスタッフが参加するものですが、インドYMCA同盟はアジア・太平洋地域の他国のYMCAスタッフにも参加していただきたいと考えています。

研修は英語で行われるため、英語の基礎的な知識が

必要です。コースは2013年7月から1年間です。研修参加者に与えられる補助を差し引いた費用は、約1,100 USドルで、入学金、寄宿代、食費その他、集中的なフィールド・エデュケーション・プログラム込の研修費用が含まれます。

ご関心をお持ちの方は、日本YMCA同盟までお問い合わせください。



発行元
アジア・太平洋YMCA同盟
Asia and Pacific Alliance of YMCAs
23 Waterloo Road, 6th floor, Kowloon, Hong Kong
tel. 852-2780 8347, 2770 3168, 2783 3058; fax 852- 2385 4692
e-mail: office@asiapacificymca.org